



教区シノドスは教区の代表者が集まって会議をすること。それが1回で終わるといいですが、非常に重要な内容を議論して結論に至らないこともあります。あくまで案ですが、2014年5月3日から5日まで開催し、また集まる必要があ

回、総会を開いています。そして35の提案が出て、どの提案に優先的に取り組むかについての投票は第三次総会の翌日に行われたということです。これもその前段階があつて、小教区、地区、教区レベルで話し合っています。長崎教区シノドスでは教区、地区、男女修道会、婦人会、神学校、青年、教区評議会などの各代表

決するためのものではなく、教区としての方向付けを考えしていくものです。

アンケートは、どんな動きにつながるのですか？

アンケートの結果が各小教区からシノドス事務局に届いたら、その集計したもの再度小教区に返し、また考へてもらいます。話しあつてもらいます。

この際大事なのは、「司祭や役員に全部おまかせ」ではなく、「一人一人の、すべての信者が、抱

いません。問題の根っこに大きな原因が隠れているのかかもしれない。わたし自身も信者さんたちの悩み苦しみを分かち合いたいと思っています。

開催については、反論や異見も恐らくあると思います。これまで牧者のイメージは、司教が何か提言したらみんながついしていく——という1つのイメージがありました。

減っているのも事実ですが、最大の理由は、長崎は求道者が少ないということ。他教区は長崎と違つて成人洗礼者が多い。このことについて問題意識を持つべきだと思います。今の長崎教区の現状をみんながどう見るかということ。誰も意識しなければこのままで。たまたまわたしの代になつて、こういう（150年という）機

い意味での深い根を感じます。400年受け継がれたもの、独特の雰囲気がやつぱりあると思う。それはわたし自身もあらためて感じてきます。一方で、迫害時代は隠れながら必死で神さまに祈り、信仰をまさに心の内に秘めながら守り、保ち、子から孫へと伝えなければなりませんでした。現状ではさまざまな理由

す。150年の節目の意味はまさにそれです。そのことを心に留め、教区シノドスに向けて、時間をかけて準備していくべきだと思います。

時間はかかるでしょうが、一人でも多くの人にたくさん話すきっかけを小教区において考えていただきたいと思います。聖靈の照らしと導きを祈っています。

教会の歴史の中で、全世界の司教たちの会議を「公会議」と言つていますが、地域の司教会議（教会会議）はシノドスと呼ばれました。シノドスはもともとギリシャ語の「syn」〔<sup>シン</sup>〕〔<sup>共</sup>に〕と、いう意味と「hodos」〔<sup>ホドス</sup>〕〔道〕のこと。これが一つになつて「シノドス」。つまり「一緒に道を歩く」。共に集まつて会議をして前に進む、ある方向に向かつて一緒に歩くと、いう意味にとれると思います。教区全体が一つになつて話し合いをし、どの方向に向かうかを自分たちで決めます。

2015年は信徒発見150周年。この機会に長崎の教会の歴史や信徒発見後の歩みと現状を振り返り、「長崎教区を将来に向けて具体的にどうするか」を教区全体で考えようと、「長崎教区代表者会議（教区シノドス）」を2014年に開催する方向で、準備が進められている。今年度は小教区を中心に話し合い、来年度の地区レベルでの話し合いへとつなげていく。実際のところ「身近に感じられない」という声も聞かれるが、10月下旬以降、各世帯に届けられる「教区代表者会議（教区シノドス）」に向けてのアンケートなどを通してより身近なものとなつていくことを期待する。教区シノドスについて教区長・高見三明大司教にあらためて話を聞いた。（編集部）

が)、それに至る話し合  
いもとても重要です。  
わたしは教区ビジョン  
として「参加し、交わり、  
宣教する教会」を打ち出  
しましたが、例えば、も  
う少し具体的に「何をも  
つて」参加し、交わり、宣  
教するのか。長崎教区が  
どの方向に、何をしなが  
ら進んでいくのかを考え  
るための会議が必要です。  
そして、いろんな話し  
合いは信仰教育にもなつ  
ていくんですね。自分の  
信仰について考える、議  
論する、反省する、祈る

えている問題や信仰に生きる喜びなど一言でもいいから意見を出してもらうこと。それを小教区でまとめ、地区に持つてていきます。そして地区に持つていったら「これでわれわれの役目は終わつた」というのではなく、かかわっている意識を持ち続けてほしい。そのためには、今、教区のどういうところでどういう話し合いがあつてているのか、「よきおとすれ」などを通して絶えず情報を共有し、コミュニケーションをと

— 信徒発見 150 周年 —

何かをやる時、突然ふつてついたように提案する。なぜ「今」なんでしょうか？

年という節目にあたつての開催というのは分かりますが、あえておたずねします。なぜ「今」なんだと思います。ただ、今は時代の流れもあって、基本的にはそうですが、司教が何かを言つたら、そのことを全体で検討し、その上でみんなで行動していくたらと思います。

会が巡ってきたというの  
は、わたしなりにお恵み  
だと思つています。  
――問題意識を持つこ  
とから始まるのですね。

から子へ孫へ伝えることすら危うくなつてきています。

150年。信仰が自由になつて「もう」150年です。あこがれて待ちに待つた信仰の自由が得られて150年たつたのに、自分たちの信仰を外に向けて伝えるという努力がまだ十分できていなければ、イエスさまはすべての人を弟子にしなさい、すべての人に福音を伝えなさい、とおつしゃいました。1人でも多くの人に伝える。これ

ご先祖に心より感謝を・・・  
**明治石材**

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網  
**エテルナ・ワコー(株)**  
代表取締役 ミカエル 溝口美義  
〒858-0926 佐世保市大潟町586  
TEL(0956)47-4380



シノドスについて語る高見三明大司教  
=2011年10月4日 長崎大司教館=



10月16日、長崎北地区連合婦人会主催がカトリックセンターで開催され、教区連合婦人会の指導司祭であり、長



## 講演会「家庭 愛と命の絆」

### 長崎北地区連合婦人会主催

崎北地区連合婦人会の指導も務めている大山繁師(写真)が「家庭 愛と命の絆」をテーマに講演を行った。また、現

大山師は、信仰生活における家庭の役割について、家庭は信仰生活のベースであり、夫婦間、親子間の愛が信仰の基本であると語った。また、現

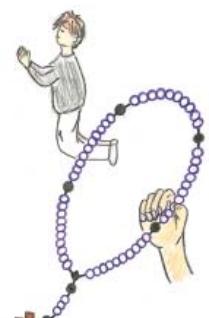
最後に全員で家庭のための祈りを唱え閉会した。この講演会は継続開催していく予定で、多くの信徒への参加を今後も呼び掛けていく。



## 長崎の教会群とキリスト教関連遺産登録推進周知のCM 11月から放送

### みことばにふれて[79]

#### 山口竜太郎神父(水の浦教会)



カット・江口貴裕くん  
曾根教会 小5

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」(ヨハネ15章5節)  
ワールドユースデーの山教会に小・中学生の美しい歌声が響いた。長崎文

を追いかけていたがたは、なたがたはその枝である。」(ヨハネ15章5節)  
ワールドユースデーの山教会に小・中学生の美しい歌声が響いた。長崎文

界遺産登録推進を周知するテレビCMのための撮影。CMは県内の教会を

県が10月から実施している「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世

聖歌を披露した。これは長崎

化放送(NCC)のカメラの前で聖マリア学院の音楽クラブ「SCORER」のメンバーや16人が

聖歌を披露した。これは長崎

化放送(NCC)のカメラの前で聖マリア学院の音楽クラブ「SCORER」のメンバーや16人が

## 800キロのサンティアゴ巡礼

### 川上健治(大野教会)



## 鎮西学院創立130周年記念 渡辺和子シスターが講演(諫早)



毎週月曜日25時15分から放送。

では買えない、心の中に幸せいをつける、心の魂を育てる」と語り、在校生、保護者、一般参加者ら

合わせて1200人余の

聴講者に、さわやかな感

た。わたしたちは家族や

周りの人に支えられながら、影響を受けながら、キ

リスト信者として生きて

きている。でも、疲れて

た。追いかけるのをやめ

てしまつた。では、どうすればよいの

か。どうすればいいの

か。どうすればいいの